

## 今年の戦跡めぐりでは

西坂戸 大山 茂

### 飛行場跡地に被爆アオギリ

坂戸市での戦争遺跡をめぐり市民の記憶にとどめようと、例年10月に九条の会さかどは戦跡めぐりを実施しています。ここ数年、坂戸市千代田から鶴ヶ島市富士見にかけて存在した陸軍坂戸飛行場の跡地めぐりを行なってきました。今年の「戦跡めぐり」は降雨だったこともあり、参加者は少なかったのですが、坂戸に飛行場を造る地理的条件や跡地の思い出など新しい資料が出ました。そのことを踏まえて、今回は次のような内容を予定します。

1. 陸軍坂戸飛行場ができた歴史的、社会的背景  
日中戦争を始めた日本は、対米英戦争の準備に取りかかります。海軍は航空母艦を多く建造し、艦載の戦闘機・攻撃機を大量に増備し、操縦士養成として霞ヶ浦に予科練を設営しました。陸軍はそれに負けじと、航空士官学校を増強し、坂戸の地に分教場を強引に作りました。その歴史的・社会的背景を把握していきます。
2. 陸軍坂戸飛行場は住民の土地を奪うところから資料によると、千代田の農家の人たちに一夜のうちに指示を出し、翌日に印を押させるという強引な手法で飛行場用地の収奪が行なわれました。
3. 様々な思い出  
巨大な格納庫が残っていたこと、秘密保持のため東上線に憲兵が乗り込み遮光板を下ろさせたこと、など。
4. 戦後、飛行場跡地を米軍が使おうとしたが、開拓農民の運動により阻止したこと。
5. 坂戸中敷地内に残っている「弾薬庫」（現在は体育用具の倉庫として使用）、弾薬庫脇に植えられている「被爆アオギリ二世」などをご案内します。

### 被爆アオギリについて

爆心地から約1.3km離れた、広島通信局の中庭にあったアオギリは爆心地方向にさえぎるものがなかったため、熱線と爆風をまともに受けました。そのため枝葉

はすべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けました。ところが枯れ木同然だったこの木は、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で虚脱状態にあった人々に生きる勇気を与えました。

アオギリは、庁舎の建て替えに伴い移植されました。枯死するのではないかと心配されましたが、その後も毎年種子をつけ、原爆の被害を無言のうちに語り続けています。アオギリの種子は国内外へ贈られ、多くのアオギリ二世が元気に育っています。

坂戸中敷地内のアオギリも、この種子から育てられた苗木を植樹したもので、坂戸市内の全中学校と坂戸、勝呂、三芳野小学校にも植えられています。

## 考え、語り継ぎ、行動を

北大塚 武井 誠

原爆投下から73年が経過した今年、第26回「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」が開催され、2日間で230人の方が来場されました。

その絵画展特別企画での服部道子さんをはじめ、私は今年の夏、3人の被爆者の方から体験をお聴きする機会がありました。どの方も、筆舌に尽くしがたい凄惨な体験を、研ぎ澄まされた言葉で語られ、お話は私の心に深く刻まれました。そして、お話の最後に共通して言われたのは「原爆・戦争の恐ろしさ、平和の尊さを決して忘れないでください」「考えてほしい、語り継いでほしい、行動してほしい」「祈るだけでは平和は来ない」ということでした。

私たちには、この訴えに応える重い責任があると感じています。

このことについて絵画展実行委員の一人として提案し、取り組んだことを2点報告します。

一つ目は「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表团」の報告です。

埼玉平和運動センターの取り組みとして毎年行なわれてきたこの代表团に坂戸市民の若者を子どもたちの世話係を兼ねて派遣、参加費用を絵画展実行委員会が負担し、絵画展の特別企画の一つとして報告をしてもらいました。

## 坂戸の戦跡めぐり

日時 10月20日(土曜日) 13時30分～16時  
集合 坂戸中央公民館2階和室(解散も)  
内容 弾薬庫や被爆アオギリ、陸軍の標石、ペトンなど、市役所周辺の陸軍坂戸飛行場の戦跡を歩きます

パワーポイントを駆使して、たくさんの画像とともに、素晴らしい発表をしてくれました。

二つ目は、大学生ボランティアの参加です。6月に城西大学で、ボランティア活動に興味を持つ学生さんたちにお話をする機会がありました。一つの例として原爆絵画展のことを紹介し、絵画の搬入・搬出、会場整理、駅頭での宣伝活動などのボランティアを紹介したところ、聴講されていた5人の学生さんからメールで申し込みがあり、今回初めて実現しました。骨惜しみせずよく働いてくれて、とても助かりました。

二日目の午前中には、子ども代表団の報告をする若者も含めて、別室で「ミニ学習会」を行ないました。内容は、

- 絵画、展示資料、参考文献などをみた感想の交流。
- 午後の発表のリハーサルと、感想の交流。
- 戦争が起こる原因は何かについて意見交換。

私の短いコメントをはさみながらの1時間半、大変有意義な時間が過ごせたと思います。

「この取組の重要性を感じた。一部だけの問題にしないで、こういうことを続けて、みんなにわかってほしい」「被爆者と、そうでない人の認識のギャップについて考えさせられた」「実態を知る努力をこれからしていきたい。教科書は文字から入るので実態が伝わりにくい」「国民を洗脳する『教育』の恐ろしさを感じた」真剣にこういった意見を発表・交流する若者たちに、私は希望を感じました。来年度の広島派遣を希望する手を挙げてくれる学生もいて、感激しました。

「油断すると、あっという間に戦争はやってくる」これは私が今年、広島市で体験談を聴かせていただいた切明千枝子さんの言葉です。そのとき戦場に赴かねばならないのは若者たちです。彼ら自身が彼ら自身の手で平和な未来を切り拓いていくために、今年取り組みがさらに前進するよう、走り続けます。

## いま、戦後世代が「戦場体験」を受け継ぐということ(2)

戦争研究者 遠藤美幸

### 3. 拉孟戦とは？ ビルマルートの要衝・拉孟

雲南省西部の拉孟は、英米連合軍の補給路（ビルマルート）の重要な拠点であった。よって、1942年から44年にかけて日本軍は、この補給路を遮断するために2000メートルの山上に堅固な拉孟陣地(約2キロ四方)を構築した。

1944年頃のビルマルートは、インドのレドから北ビルマのミートキーナ、バーモ、ナンカンを経て、中国雲南省の芒市(ぼうし)、龍陵、拉孟、保山、昆明に通じる。ビルマを横断し中国に至ることからこの補給路を中国では「滇緬(てんめん)公路」と呼ぶ。滇は雲南を、緬はビルマを意味する。雲南省での戦闘にもかかわらず、拉孟戦をビルマ戦線と見なすのはこのような理由からである。拉孟戦をひと言でいえば、連合軍の補給路の遮断をめぐる日本軍と中国軍(米軍支援)の壮絶な攻防戦である。

当初、雲南戦線は日本のインド侵攻を目論むインパール作戦(1944年3月～7月)の支作戦にすぎなかったが、1944年5月中旬、連合軍が北ビルマの軍事拠点ミートキーナを攻略し、同時に無謀な作戦で有名なインパール作戦の失敗後、次第に雲南戦線が日本軍のビルマ防衛作戦の主作戦として重視されるようになる。

この作戦は、「断作戦(ビルマルート遮断作戦)」と呼ばれ、拉孟戦はビルマ防衛作戦の「最後の砦」として一挙に重要視されるが、実際の拉孟戦もインパール作戦同様に勝算のない戦闘であった。

1944年6月以降、約1300名の拉孟守備隊は、約4万の中国軍の包囲により補給を絶たれ孤立無援の状態に置かれる。拉孟守備隊は最後の兵まで死闘を命じられ、100日間の戦闘の末、1944年9月7日に全滅した。拉孟のように洋上の孤島でもない内陸部での全滅は戦史上類がない。全滅の主な理由は、慢性的な兵力不足、制空権がないこと、軍需物資の欠乏であった。拉孟は、「最後の砦」どころか、最後は軍上層部が撤退する際の時間稼ぎの「捨て石」とされた。

## 原発と核のゴミを考えるつどい 「核のゴミ、どうするの？」

### 講演1 原発と核のゴミ問題

### 講演2 福島第一原発の汚染水問題

高レベル放射性廃棄物は、原発が稼働する限り発生し続ける「核のゴミ」です。

ゴミは発生させた人(国)に処分する責任がありますが、世界でも地震が多い日本では、「核のゴミ」を安全に保管する場所は未だに見つかっていません。

経済産業省は、昨年7月に高レベル放射性廃棄物の処分場選定のための「科学的特性マップ」を公表。

しかし「科学的」とは名ばかりで、極めて不十分な検討のもとに示された「処分に適した場所」は日本各地に存在し、鶴ヶ島市もそのひとつになっています。

「核のゴミ」問題は「原発再稼働」と密接な関連があります。ぜひ、ご参加ください。

- 日時 10月6日(土)13時～15時30分
- 会場 鶴ヶ島市富士見市民センターホール
- 参加 300円(高校生以下無料)
- 主催 原発のない社会をめざす鶴ヶ島市民の会
- 連絡 石塚(049-285-6244)、青木(090-7949-9351)
- 協力 九条の会さかど

## 今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

10月25日、11月22日、12月27日(第4木曜日10時～12時)  
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室

「原発と」  
「核のゴミを考えるつどい」  
核のゴミ、どうするの？  
\*講師\*  
関根一昭さん(地学団体研究会)  
末永和幸さん(応用地質研究会)  
(2018年)  
10月6日  
12:30～開場  
13:00～開演  
(15:30に閉演)  
高レベル放射性廃棄物は、原発が稼働する限り発生し続ける「核のゴミ」です。ゴミは発生させた人(国)に処分する責任がありますが、世界でも地震が多い日本では、「核のゴミ」を安全に保管する場所は未だに見つかっていません。  
経済産業省は、昨年7月に高レベル放射性廃棄物の処分場選定のための「科学的特性マップ」を公表。しかし「科学的」とは名ばかりで、極めて不十分な検討のもとに示された「処分に適した場所」は日本各地に存在し、鶴ヶ島市もそのひとつになっています。「核のゴミ」問題は「原発再稼働」と密接な関連があります。ぜひ、ご参加ください。  
参加費 300円(高校生以下無料) 主催 原発のない社会をめざす鶴ヶ島市民の会(既発表・鶴ヶ島) 連絡先: 石塚 049-285-6244 青木 090-7949-9351 協力: 九条の会さかど  
鶴ヶ島市(ホール) 富士見市民センター